

Column  
[コラム]

庶民の技術

電気の要らない自動ドア

文・濱田ゆかり

自分で制御できるから安心して楽しい

お金をかけた大きな技術もいいけれど、小さな技術もおもしろい。手軽にできて安上がり、何より人の手で扱えるから工夫が効いて創造的。そんな身近なエコアイデアコンテスト「チエコ」を主催する建築女子ユニット「つながるズ」の濱田ゆかりさんに、目からうろこの「最新技術」を寄稿してもらった。

「技術革新」可能性まだ大きい

新潟県中越地震でのこと

2004年10月23日、新潟県中越地震。私は長岡の長いトンネルと湯沢のトンネルの間、新幹線の中で被災した。新潟からの帰り道、ぐっすり寝ていた私は、大きな揺れに起こされ、気がつくと、再び揺れが。

新幹線は停車し、車内の電源は非常用電源に変わり、揺れると停電する。揺れがおさまればしばらくすると通電し…の繰り返し。揺れるとデッキに出る自動ドアが開かない。トイレの自動ドアも開かない。トイレは揺れと揺れとの間に行かなければならない。用を足している最中も、どうか揺れないことを願っていたのを覚えている。

「電気が要らない」に目からうろこ

先日「電気の要らない自動ドア」に出会った。その時、中越地震で味わった不便さを真っ先に思い出した。

「省エネ」という言葉は当たり前になっているが、「電気が要らない」という発想には、なかなかならない。この「電気が要らない」という「あって

当たり前」の発想」に、深く頷き、感動した。

ものづくりの原点が何か間違っているのではないかとも思った。「電動」ということが「最新式」の代名詞になった時代があった。もちろん電気を必要とする機器は仕方がない。足踏み発電のパソコンなんてありえない。ただ、電動にしなくてもよいものもあるのではないか。

子供のころ電動式鉛筆削りが出始め、鉛筆を入れるだけで芯が尖って出てくる。私は手動式のものしか持っていなかったが、電動式鉛筆削りに憧れたものだ。ミシンだってそうだ。踏むだけで、ジャーっと音を立て縫えていくことに便利さを感じた。

だから、電気の要らない自動ドアに「目からうろこ」。私たちは、今でも電動にすることが技術革新だと思っているのかもしれない。確かに電動だと便利である。人力に頼らないことによって、ユニバーサルとなる。

だからと言って、何もかもが電動になってよいのかと、この自動ドアを見て感じた。



電気の要らない自動ドア  
写真は403新宿ギャラリーにて撮影

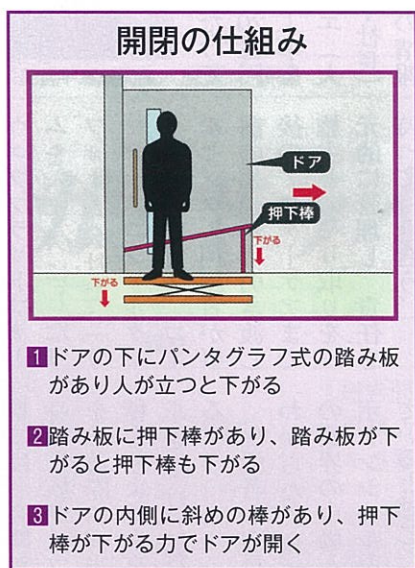
「電気不要」は技術革新だ

この電気の要らない自動ドアは、ドアの前の踏み板に乗るだけ。床下に仕込まれているパンタグラフ式のシステムが、体重で下がった踏み板の力で動き、ドアを開ける。すごく単純なシステム。だから故障は少なく、停電も怖くない。おそらく高価な保守契約も要らないであろう。「電気が要らない」ということになんら不便もない。

今思うと、自分で回すと尖った鉛筆が出てくる方が楽しさを感じられ、足踏みミシンの方が微妙なスピードで縫えて便利であり、電動では味わえない感覚があった。

このドアの前に立つと、足下がフカッとくすかに沈む。システムがわかると自分の体重が力に変わってドアを開閉することにおもしろさを感じる。これも電動では味わえない感覚であろう。「便利」にはない感覚である。

「電動式」が今までの技術革新の一つであるならば、もうそろそろ「電気が要らない」が、技術革新の一つに入ってもよいだろうと思った。



- 1 ドアの下にパンタグラフ式の踏み板があり人が立つと下がる
- 2 踏み板に押下棒があり、踏み板が下がる時押下棒も下がる
- 3 ドアの内側に斜めの棒があり、押下棒が下がる力でドアが開く

電気が要らない自動ドアのお問い合わせは古林産業機具(株)☎022-390-6422 または(株)有紀☎0242-39-2308まで。

「燃え広がらない」「裏あて不要」— 日本唯一の防火木製外壁

WILL WALL ウイルウォール

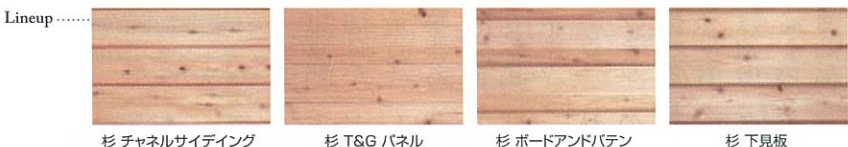
「延焼・類焼を防ぐ」— それは「外壁に着火し、燃え広がり、開口部などからの火の侵入を防ぐこと、そして隣家に火を移さないこと」そこまで考えるべきだと思います。ウイルウォールは在来工法・枠組工法という「工法別」のみならず、「断熱材が可燃物」であっても、「部屋内側に不燃材料を使用しない」場合でも、「外壁の燃え広がりを抑え」かつ建築物内部への「遮熱性」「遮炎性」を実現し、「裏あてをしなくて天然素材の調湿性などをそのまま活かせる」日本で「唯一の」防火木製外壁です。(防火構造・準耐火構造 45分・60分の認定取得済み)



その他の形状もございます。

国産材ウイルウォール J.WILL WALL が生産開始!

「外装材が着火しない、燃え広がらない」—「ウイル」独自の外壁材としての性能が国産材でも可能になりました。



「準防火地域」「22条指定地域」「一般地域」全てのエリアに対応する国産材ウッドサイディングのラインナップ。

